



かわはく No.14

CONTENTS

特別展「水辺の妖怪：河童」	2
炭焼き窯が完成	3
荒川の支流を訪ねる その3「入間川」後編	4
川辺の生きもの百科 No4	5
川を学習の場とした体験学習プログラム	5
身近な水紀行	6
かわはく日誌	7
今回の表紙の写真は	7
教育普及活動のご案内	8



平成14年度特別展

『水辺の妖怪：河童』

開催期間 平成14年7月20日(土)～9月8日(日)

はじめに

古来河童は、人々に恐れられる妖怪でした。しかし悪戯者の河童は、しばしば捕らえられるという失態も演じました。捕らえられた河童は、命乞いの代わりに薬の製造方法を教えるなどして、人間と友好的な関わりを持つようにもなりました。人間との関わりが深くなるにつれて、河童は恐ろしい妖怪から愛すべきマスコットへと変身していきました。

1, 河童のミイラ

河童の存在に疑問を持っている人が多いようです。しかし、全国には多くの河童ミイラがあり、その存在を疑う余地はありません。



河童の手：
熊本県志岐八幡宮蔵



河童の頭：
兵庫県明石市立文化博物館蔵

2, 河童古像

ミイラと同様に古い河童像も全国に存在します。九州筑後川流域の河童像は、「川の殿」と呼ばれ、その特徴は目を見開き憤怒の形相をしています。頭頂の窪み(皿)以外に河童の特徴はありません。



川の殿像：福岡県祇園社蔵



ガラッパドン(川童殿)：鹿児島県戸田観音蔵

3, 描かれた河童

河童は、超進化を遂げている妖怪です。そのため古代の「河童」が、どのような姿をしていたのかは解っていません。しかもその姿は多様であり、多く

の種族に分かれています。現在の河童の姿は、およそ江戸時代に完成しました。

(1)江戸時代

猿に似た河童、亀・鼈に似た河童、痩せて毛深い人のような河童などが活躍します。何れも恐ろしい形相を呈しています。雌の河童が描かれることは、ほとんどありませんでした。



東海道五十三次之内・小田原：個人蔵

水虎之図：
川崎市市民ミュージアム蔵

(2)明治・大正時代

芋を買う銭があれば充分だと言った清貧の画家・小川芋銭は、河童に宇宙を託しました。また芥川龍之介は、初めて女河童を描きました。



小川芋銭河童像：
茨城県小川芋銭記念館

(3)昭和・平成時代

楚々とした色気を漂わせる女性河童の登場です。将来河童は、どのような姿になるのでしょうか。

薫風(小島功)：
静岡県小川文彦氏蔵



おわりに

以前は多くの人々が、河童と遭遇し、その体験談が語られました。しかし近頃、河童を見たという話は極力聞かれなくなりました。子供が川や湖沼などの水辺から離れ、プールで泳ぐようになったからだとされています。また一説には、河童の棲める環境、つまり水質が悪化したからだとも言われています。河童は何処に…。 (中村倉司)



さいたま川の博物館に炭焼き窯が完成!!

当館では、平成13年度テーマ展示「炭～いまを生きる知恵とちから～」の開催にともなって、ワークショップ「炭焼き体験」を実施しました。

苦勞の末、当館溪流観察窓入り口南側に、黒炭専用の炭焼き窯が完成しました。

当館では平成14年度より、炭焼き体験のワークショップやサークル活動・個人での炭焼き体験に活用していく予定です。

当館ワークショップは、第1回を11月16日(土)・30日(土)に、第2回を平成15年1月18日(土)・2月1日(土)に行います。窯に入っての窯詰め、炭焼き、窯出し、依編みから始まる炭俵作りなど、盛りだくさんです。みなさまのご参加をお待ちいたしております。

また、サークルや個人の方への炭焼きノウハウのご提供や、窯の貸し出しについては、現在検討しておりますので、当館学芸第2課まで、お問い合わせ下さい。

問い合わせ先 さいたま川の博物館 学芸第2課

埼玉県大里郡寄居町大字小園39 電話048 (581) 8739



①窯穴を掘ります



②大谷石を積み上げて壁を作ります



③炭材料を詰めます



④天井になる土を積みます



⑤火をいれます



⑥窯が完成し、炭が焼けました



荒川の支流を訪ねる —その3— 『入間川』 後編

今回は、前回に予告した入間川の起点をめざしてみたいと思います。梅雨入り前、6月初旬の晴れ上がった日、入間市・飯能市の市境から出発しました。

入間川を上ると、入間市仏子で西武池袋線の陸橋と入間上橋をくぐり、いよいよ飯能市に入ります。右岸に阿須運動公園、駿河台大学がみえてきます。左岸には川原が広がっています。

さらに上流に上ります。加治橋、飯能大橋を越え、飯能市街地の南方を通り、岩根橋に至ります。以前は、岩根橋より上流を名栗川、それより下流を入間川と称していました。現在の一級河川入間川は、名栗川の起点（同村大字上名栗）から荒川との合流点（全長51.273km）までとなっていますが、今でも名栗川の呼称は親しまれています。名栗川と呼ばれる流域は、杉や檜を中心とした壮大な森林が広がります。また、水の音も徐々に溪流の音に近づきます。

飯能市西部の原市場や名栗村は西川材の産地として有名です。西川材とは、江戸の西方から筏を組んで木材を流したことに由来します。川沿いの山から切り出した杉や檜を筏に組んで、出水を待って、江戸に流したそうです。雨量が豊富なこの地方の木材は、建築材として需要が高かったようです。古く、寛永年間には、川越藩主・松平信綱が、日光街道杉並木に名栗産の苗木を採用しました。江戸幕府3代将軍・徳川家光に重用された信綱は、その聡明さから「知恵伊豆」と呼ばれました。その知恵者に認められた杉ということになるのでしょうか。下の写真は森の様子です。



名栗村に入り、川の音はさらに激しくなります。入間川に沿って、県道53号線（青梅秩父線）を走

ります。やがて、名栗川橋が、私たちを出迎えてくれます。平成11年に県の有形文化財・建造物の指定を受けたこの橋は、大正13年に完成しました。永久橋を願う村民の努力により、当時としては珍しかった鉄筋コンクリートの橋が架けられました。現存する鉄筋コンクリートのアーチ橋としては、県内最古のもので、長年にわたり人々の往来を支えた頑丈さが伝わってきました。

さらに上流をめざし、上名栗に入ります。途中、名郷で街道が二股に分かれます。道沿いに53号線を進むと、山伏峠を越えて秩父郡横瀬町に至ります。名栗村は大正10年に、秩父郡から分離して入間郡に編入されました。以前はこの道を通って、秩父郡との交流が盛んでした。しかし、入間川の起点は、こちらでなく、左手（西方向）に進みます。途中、大場戸橋の手前で川も道も二股に分かれます。起点に行くには、右手の登り坂を進みます。現在は、先に落橋の危険があるために通行止めでした。徒歩で山を登ると、舗装道路が続き、約1kmほどで起点の碑があります。道路から川を望んで、左岸側にひっそりと立っています。碑の背後は、砂防ダムがあります。しかし、近辺は人工物も少なく、入間川溪流の音を聴くことができます。（河村康彦）





川辺の生き物百科 No.4

オオカワジシャ

Veronica anagallis-aquatica L.

(ゴマノハグサ科)

ヨーロッパからアジアにかけてを原産地とする多年生草本です。よく似た在来種のカワジシャと比べると、大型でまるでオオイヌノフグリのような青色の花を総状に付けます。春、5月頃開花します。

現在、河原や護岸工事後の河原など、人の手の入った川沿いに大群落を形成する姿をあちこちで見かけます。1998年版埼玉県植物誌では、県内の荒川沿いで記録がありますが、まだ県東部では記録されていません。近畿地方を中心に全国的に分布を拡大中なので、近くの川辺でも繁殖していないか注意して見てほしい植物です。

博物館付近では、宮川の河口付近と、玉淀大橋の下の、水分があっじめじめした場所で、大群落を作っています。こうした外来種の多くは、河原などに最初に入り込むことが多く、環境の変化に敏感です。博物館前の荒川沿いでも毎年出てくる植物のメ

ンバーに変化がありますから、記録を付けておくことが大切です。

このように、川辺では外来種がとて多く、ふつうの図鑑では判らない生物であふれていて、外来植物図鑑が手放せません。
(榆井 尊)



博学連携のための

「川を学習の場とした体験学習プログラム」

さいたま川の博物館では、周辺地域の中学校を連携校として博学連携プログラム検討委員会を開催し、本年度から本格実施となる「総合的な学習の時間」や理科学習を支援するプログラムの準備を進めてきました。その成果として、「川を学習の場とした体験学習プログラム」を開発しました。科学技術振興事業団より財政面の支援を受け、フィールドワークを主体とした5種類の手引き書や10種類の解説用パネルを作成するとともに、学校への貸し出しができる備品を整備しました。

1 プログラムの概要

本プログラムは主に中学校を対象とし、学校の理科の授業における深化・補充や、総合的な学習の時間における「環境学習」の分野、川を中心とした地域学習における生物、地学分野等の学校支援プログラムです。実施にあたって必要となる用具、器具、手引き書等を当館が提供し、必要に応じて指導者の派遣を行ったり、来館していただいたり、物品を貸

し出したりすることにより、学校における理科教育・環境教育を支援しようとするものです。

2 今後のプログラム実践予定

平成14年度より連携6校との間で支援プログラムを実践します。7月に当館が実施する小・中学校の教員を対象とした利用促進研修会において、支援事業の内容を紹介し、15年度の支援プログラム実施希望について聴取します。14年度末までに15年度の連携校を定め、支援内容や日程についての調整を図ります。
(小島明夫)





洪水の恐ろしさを伝える「切れ所沼」

熊谷駅の南口に出ると、線路の直ぐわきを東西に走る道路があります。この道をJR行田駅方面に進むと、やがて正面にホテルサンルートが見えてきます。このホテルの手前にあるT字路を右折して直進し、交差する南大通りを渡って道なりに進むと、荒川の堤防に突きあたります。高さ約12mの堤防に取り付けられた坂道を登り、見晴らしのよい堤防上の道路を下流すなわち吹上方面に向かってしばらく歩くと、右手下方に久下橋が見えてきます。この橋は、荒川に架かる県道としては唯一の冠水橋ですが、すぐ下流で永久橋の建設が進められており、まもなく渡河の役割を終えようとしています。さて、堤防の坂道を堤外に向かって下り久下橋を渡ると、荒川右岸の広い河川敷に出ます。河川敷には畑地や水田が広がり、そのなかを縫うように走る道路を進むと、荒川右岸の堤防に突きあたります。この堤防の坂道を登り堤内地に足を向けると、堤防直下に清々と水を湛えた切れ所沼が目に入ってきます。堤防に接して掘られたような方形の沼で、三方を屋敷林や水田に囲まれた約8,000㎡の広さを有する沼です。

この沼は、低地に水が湧き出して沼になったものでも、住民が灌漑のために造成した沼でもありません。「切れ所」という名称から推察できるように、荒川の堤防が決壊し、その濁流によって堤内地が掘り窪められてできた沼なのです。したがって、南北に延びる堤防から直に突き出たような形で、東西に長い方形の水面を呈しているのです。水深は堤防の近くが最も深く約2mを測り、西方では約1.5mとなっています。すなわち、堤防から離れるにしたがって徐々に浅くなっているのです。しかし、この沼は長年月の間かなり埋まってしまったようで、洪水直後の新聞報道によると、「此ノ部分ハ現ニ殆ンド本流ト化セル観アリ」と伝え、深さは約6mもあったといわれています。まさに、この沼は濁流の凄まじさを今に伝える生き証人となっているのです。

昭和13年9月1日、台風が関東地方南部を直撃しました。この台風で、秩父地方は記録的な豪雨に見舞われ、荒川の

水位は急速に上昇しました。1日午前6時には皆野町の親鼻橋で10.6m、同7時には吹上橋で8.9mを記録しました。市田村では、水防団が土俵を積んで堤防を守ろうとしましたが、水位の上昇が著しく、水は堤防を越えて滝のように流れ出し、この切れ所から南の玉作地内にいたる堤防が6箇所も決壊しました。堤防を突き破った濁流は、先ず小泉・屈戸・津田新田の集落を襲い、大里吉見地区から吉見町にまで達し、市野川の堤防に阻まれて滞水しました。滞水は平均で3m、深いところでは5mにも達したといわれています。そして、この台風による埼玉県下の死者は74名、流出家屋は369戸でしたが、濁流に直撃された市田村では17戸が流出、逃げ遅れて死亡した者は実に37名を教えました。

切れ所沼は、多くの犠牲者を出した洪水の爪痕であることが嘘のように、いま静かに水を湛えています。休日ともなると、多くの釣り人が水面に釣り糸を垂らし、ヘラブナ釣りを楽しんでいます。大里町ではこの沼を名勝地に指定するとともに、洪水の恐ろしさを伝える親水公園として整備し、沼の南側には児童公園や広場、北側には駐車場や公衆トイレなどを設け、訪れる人々の便宜を図っています。また、太公望のための釣り用デッキも設けられています。そして、水面に映る周囲の草花や四季折々の風景が、何よりも時の流れを伝え、訪れる人々の目を楽しませてくれます。



夕日に染まる切れ所沼（荒川堤防上から）



かわはく日誌

4月1日～6月30日

- 4月6日(土) 映画会「トムソーヤの冒険」(103人)
- 4月7日(日) カワシロウのワークショップ 簡単にできる水圧実験 (59人)
- 4月14日(日) ボランティアによる「ガリバーウォーク」(32人)
- 4月20日(土) 子ども放送局 のぞいてみよう知らない世界「富士山の科学」(3人)
- 4月21日(日) 野外教室「荒川を歩くⅧ」(39人)
- 4月27日(土) 学芸職員による荒川大模型の展示解説(26人)
- 4月28日(日) ボランティアによる「ガリバーウォーク」(58人)
- 5月3日(金) 荒川劇場川と獅子舞(564人) 乗馬体験(45人)
- 5月4日(土) 映画会「魚が空を飛んだよ」(151人) 子ども放送局 のぞいてみよう知らない世界「海に未来を求めて他」(26人) ボランティアによるガリバーウォーク (59人)
- 5月5日(日) 不思議な水槽探検「大きな水槽に手を入れて魚に触ってみよう」(710人) (5/6 609人)
- 5月11日(土) 土曜おもしろ博物館「川原の花で押し花をつくらう」(38人) 子ども放送局 夢スタジオ1030「明日にかける～マラソンランナー・国連親善大使有森裕子他」(5人)

- 5月19日(日) 川辺の県民交流イベント 寄居町フォークダンス連盟による「フォークダンスの集い」(115人)
- 5月25日(土) ボランティアによる「ガリバーウォーク」(24人) 学芸職員による「ガリバーウォーク」(18人)
- 5月26日(日) カワシロウ講座「荒川低地の地形と水害Ⅰー水害ハザードマップー」(51人) ボランティアによる「ガリバーウォーク」(61人)
- 6月1日(土) 映画会「地球SOSそれいけコロリン」(100人)
- 6月2日(日) 環境の日記念イベント「荒川の水質を調べる」(36人) カワシロウのワークショップ簡単にできる水圧実験 (34人)
- 6月8日(土) 土曜おもしろ博物館「水鉄砲をつくらう」(101人)
- 6月15日(土) 子ども放送局 研究室におじゃまします。「いろいろな研究室の紹介」(2人)
- 6月22日(土) 学芸職員による「ガリバーウォーク」(30人) 子ども放送局 チャレンジ教室ものづくり「うどんでドン!」(6人)
- 6月23日(日) 荒川ゼミナール「荒川低地と水害Ⅱ～志木周辺を訪ねて」(現地見学) 講師 久保純子 (56人)

開館以来の入館者数 126万6,354人

(6月末現在)

今回の表紙写真は首都圏外郭放水路です

首都圏外郭放水路は、増水時に中川、倉松川、大落古利根川等の水を江戸川に放流するための地下放水路です。中川低地の浸水被害を軽減するため、国道16号線の地下約50mに、内径約10mの大きな水路が建設されています(平成18年完成予定)。全長約6.3kmの内、江戸川側3.3kmはすでに完成し、今年の夏から使用が開始されます。

当館では、ボランティア研修会として、昨年2月、建設中の地下放水路内部を見学してきました。表紙の写真はその時に撮影したものです。

このような地下水路は、1970年代から建設され

ようになりました。その背景には、都市化の進行に伴って、土地の買収が困難になり、地下水路の方が、地上に水路をつくるよりも、費用・時間共に節約できるということがあります。

県内には、地下放水路として、他に毛長川放水路(昭和59年完成)があります。また、放水路以外にも、様々な地下水路があります。東川(所沢市)、鴻沼川(さいたま市)の下は地下河川が造られています。さらに、地下鉄7号線の下には、綾瀬川・芝川等に荒川の水を浄化用水として送水する導水管が造られています(平成14年秋通水)。(楡井 尊)

※首都圏外郭放水路は、工期中見学可能。問い合わせは「彩流館」まで(TEL 048-763-4416)。

教育普及活動のご案内 ー楽しく、ためになる「かわはく」ー

■平成14年度特別展

「水辺の妖怪：河童」7月20日から9月8日まで
妖怪として恐れられた河童も、現在では水辺の番人として活躍することが多いようです。本展覧会では、河童の描かれた浮世絵やミイラを展示すると共に、河童池を再現してその正体に迫ります。

7/27 絵馬に河童を描く 8/17人形劇・紙芝居と腹話術 8/31講演会「水辺の妖怪：河童」

■7月

6日(土) 映画会「七つのほし」(12分)「勇気のあるホテルと飛べないホテル」(17分)星になった少女の伝説とホテルの友情を描いた物語の2本立て(アニメ)

6日(土)・7日(日) 「川の日記念イベント」
七夕づくり 短冊に願いこめて、ささの葉に結ぶ
13日(土) 土曜おもしろ博物館「箱メガネで荒川の魚を観察しよう」荒川に生息する生き物をそっとのぞいてみませんか①10:30～12:00②14:00～15:30☎

20日(土) 「荒川劇場」川と太鼓
29日(月) 30日(火) 利用促進研修会

■8月

1日(休) 水の日記念イベント おいしい水を調べる
3日(土) かわはく夏祭り
親子つり大会・シャボン玉作り・お魚のエレベーター作り・利き水・ジャンボスライダー・全館ライトアップなど楽しい催しを行います。
8日～11日/22日～25日 川と水の体験スクール
中州探検・魚取り体験・水質調査など☎

18日(日) 映画会「カッパの三平」(90分)

■9月

7日(土) 映画会[那須疎水物語](20分)
14日(土) 土曜おもしろ博物館「川原でバッタやトンボを観察しよう」秋の川原で昆虫の生態と環境の関わりを考える①10:30～12:00②14:00～15:30☎
21日(土) ボランティア養成講座「さいたま川の博物館の役割」「屋外施設の配置と機能」「荒川大模型は語る」など①10:00～16:00☎
29日(日) 荒川ゼミナール「荒川扇状地の謎にせまる」日本全体の扇状地の特性をまとめられた「扇状地学」の第一人者、斉藤先生による講座 講師：斎藤享治氏(埼玉大学教育学部助教授)☎

■10月

5日(土) 映画会「トムソーヤの冒険ーあこがれの蒸

気船ー」(27分) 14:30から再上映

12日(土) 土曜おもしろ博物館「草木染めにチャレンジ」川辺に生育する植物で染色をおこない、伝統文化に親しむ。材料は、木綿のハンカチを用意します。①10:30～12:00②14:00～15:30☎

27日(日) 野外教室「荒川を歩くIX」9:30～15:30、お花畑駅集合 定員50人(申込順)費用100円(保険料)秩父市秩父公園から浦山ダムまでの荒川観察☎

■11月

2日(土) 映画会「ガンバとカワウソの冒険」(80分)
9日(土) 土曜おもしろ博物館「どんぐりや松ぼっくり、草のつるで自然をアートしよう」衣服に付着する川辺の植物の実を集めて伝統的な野遊びを体験する。①10:30～12:00②14:00～15:30☎

14日(木) 県民の日イベント10:00～16:30 ベーゴマ・オリエンテーリング・コンニャクづくり・映画会など☎

16日(土) 30日(土) ワークショップ「炭焼体験」炭の窯入れから炭出しまで

24日(日) 荒川ゼミナール「荒川・元荒川の活断層を読む」日本各地の活断層調査を手がけられている渡辺先生による講演 講師 渡辺満久氏(東洋大学文学部助教授)☎

!原則として、毎月第2土曜日10:30～と14:00～は「土曜おもしろ博物館」・第3日曜日13:30～は「シネマかわはく(映画会)」が開かれます。都合により変更となる場合があります。最新情報は彩の国だより等で紹介されています。

参加はどれも無料で、定員になりしだい締め切ります。

インターネットでも情報が紹介されています!

<http://www.kumagaya.or.jp/~kawahaku/index.html>

【お願い】①行事は都合により変更になることもあります。ご了承ください。②☎印のついた行事は、電話もしくは、Faxで原則として実施月の1日からお申し込みください。③川の情報もお寄せください。

■編集・発行

さいたま川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39
TEL048-581-7333(庶務)、8739(学芸)/FAX048-581-7332

2002年6月30日発行